

第6回芹川 川づくり会議（全体会議）

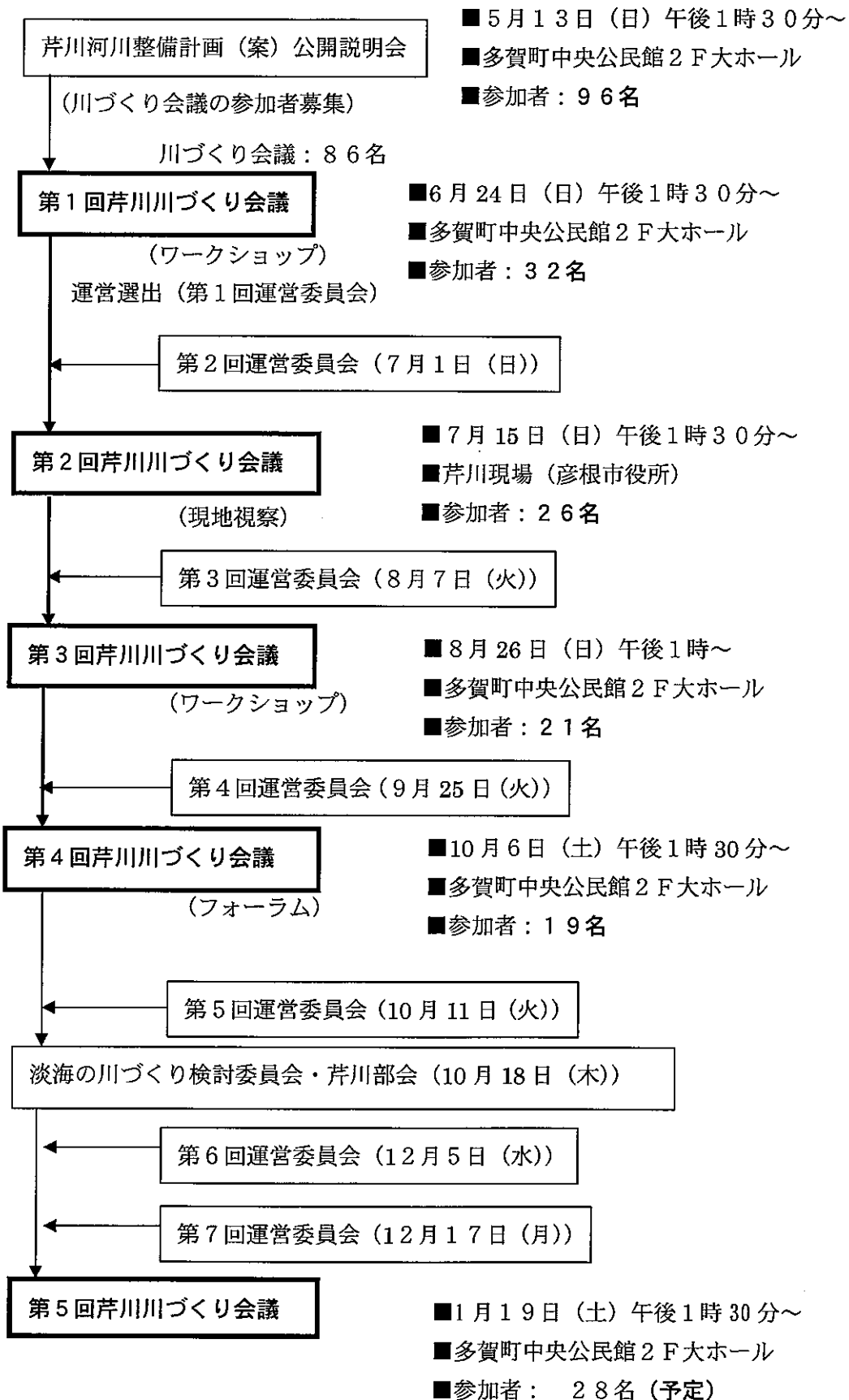
～ プ ロ グ ラ ム ～

日時：平成14年10月27日（日）午後2時～4時

場所：多賀町中央公民館2F大ホール

- | | | |
|---|----------------|-------|
| ■ | 開 会 | 14:00 |
| ■ | 換 拶 | |
| ■ | 計画案の説明 | |
| | ・ 議論の経過 | |
| | ・ 穴あきダムの検討 | |
| | ・ 課題の整理 | |
| | ・ 河川整備計画（案）の修正 | |
| ■ | 意見交換 | |
| ■ | まとめ | 15:50 |
| ■ | 換 拶 | 15:55 |
| ■ | 閉 会 | 16:00 |

2. 芹川川づくり会議の経緯



3. 淡海の川づくり検討委員会・芹川部会からの報告

「淡海の川づくり検討委員会 芹川部会」への参加：10月18日（木）

【多賀町】 土田 一善、 野村 吉晴

【彦根市】 松尾 則長、 橋 哲也 （順不同、敬称略）

：「芹川川づくり会議」へ「住民意見」を報告しました。

別 紙

4. フォーラムの運営方法

①フォーラムの目的：ダム問題の消化不良の解消を最大の目的としますが、代替案の長所・短所も含めて各案の特徴による価値観について話し合い、相互理解を進めることにします。

②ルールの確認： 発言に関するルールを確認します。

発言時間1人2分とします。時計係りが、あと1分、あと30秒、終わりのカードを提示します。時間を厳守して下さい。

多くの意見を述べたい人も1項目2回までとし、他の人に発言の機会を譲ってください。

発言メモを作って効率良く発言されることをお勧めします。

発言された内容は、所属する組織・団体などの公式見解とはせず、あくまで発言された方の個人的意見として扱います。

意見交換の内容を確認しながら進めます。「フォーラムの課題」にしたがって議事を進行しますが、同時に皆さんと内容確認をしながら進めていきます。

③前回までのダムに関する意見の確認： 10月18日（木）の「淡海の川づくり検討委員会・芹川部会」の結果を踏まえて、第6回、第7回の運営委員会で検討しました。本日の意見交換の出発点として確認したいと思います。

5. 栗栖ダムについての意見状況（運営委員会での確認結果）

（1）水没区域への配慮について

- ① これまで水没地区が様々な困難を被ってきたことを憂慮する。不自由を強いられている水没世帯の生活再建を急ぐべきである。
- ② 現時点でのダム賛成・反対の議論は、やむなくダム建設に同意した水没区域の方々への配慮を欠いている。

（2）栗栖ダム建設については、次のような意見がある。

- ① 治水対策（1/100）の必要性については、居住年数の長短だけでなく、過去の洪水の危険性についての認識によって見解が異なる。現況河道の流下能力相当で止め、それ以上の洪水には氾濫を許容するといった意見もある。
- ② ダム建設については、賛成・反対の双方の意見がある。
- ③ ダム建設の反対理由は、水没による上流の河川環境の喪失に加えて、下流区間でも自然環境が損なわれることが大きな理由となっている。
- ④ ダム建設の問題では、環境熱心県としてそれにふさわしい環境への対応が必要である。
 - ダム建設区域及びその周辺区域は、クマタカをはじめとする貴重な生物生息地であり、こうした点に配慮した環境影響の事前調査が必要である。
 - ダムを建設するにしても環境へ与える影響を最小限にすべきである。
- ⑤ 治水対策の具体方策としてダムの合理性は理解できるが、代替案の説明に理解しづらい点がある。
 - 提示された代替案以外の有効な対策案はないのか
 - 事業費その他の数値でのさらに分かりやすい説明を求めたい。

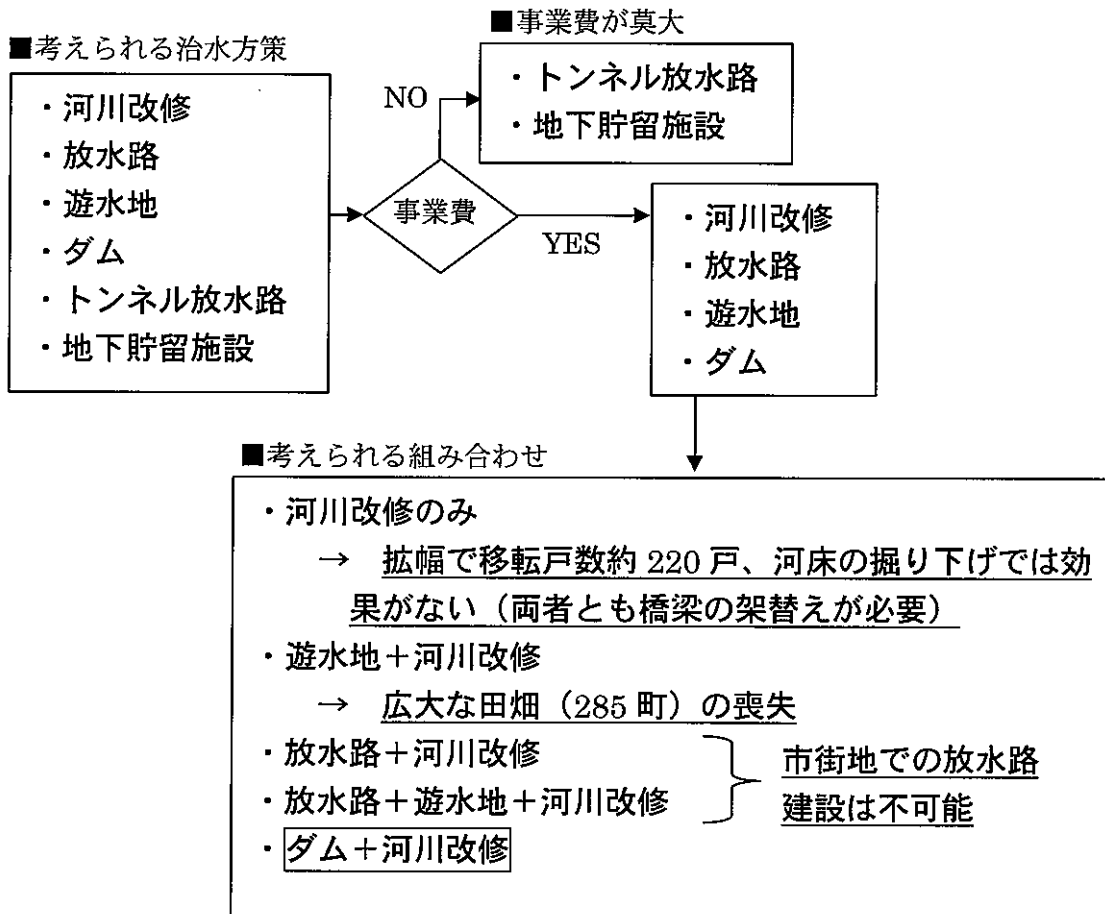
- ⑥ ダム事業の受け止め方として、次のような懸念がある。
- ダム事業の前提として流域の保水能力（山林の管理）や遊水能力（田面での貯留）を評価し、これに基づいた適正なダム規模であることを確認したい。
 - ダム建設の有無に関わらず、現況河道の流下能力が不足気味の箇所については、適切な改良による安全性の確保を求めたい。
- ⑦ ダム建設を要求してきた経緯などについて下流・彦根市からの明確な説明・報告を求めたい。

(3) 栗栖ダム建設や芹川川づくり会議についての広報が不足している。

6. 集中討議のテーマ

①治水水準（1/100）を達成するための代替案

②代替案に比べたダムの有利さ



③説明：ダムのメリット・デメリットにおける穴あきダムの特徴

	メリット	デメリット
■通常のダム	・利水容量によって渇水時に補給が可能	・湛水区域の自然環境の水没 ・土砂移動を遮断 ・放流水の水温変化
■穴あきダム	・平常時は流水を貯めない ・湛水区域は洪水時のみ水没 ・土砂移動を遮断しない	・利水容量がないため渇水時に補給できない

淡海の川づくり検討委員会 芹川部会 論点メモ
住民意見の反映

現 状

- 昭和 34 年の台風 15 号をはじめ、幾たびか洪水氾濫を生じており、昭和 40 年、昭和 47 年や平成 2 年には、深刻な出水が生じている。
- 下流部は概ね 1/30 の安全度を有しているが、国道 8 号線旭橋より上流ではこれに満たない流下能力の区間がある。
- 下流部は彦根市街地を貫流しており、人家連担部の河道拡幅は極めて困難である。
- 下流市街地の区間はケヤキ並木と良好な河川空間を形成しており、その保全が望まれている。

当初計画

- 治水安全度の目標を 1/100 とし、当面は、治水ダムと河川改修（久徳橋～栗栖地先における部分的な改修）で 1/50 を達成する。
（治水計画としては河道拡幅、遊水地、放水路など複数案を比較検討した結果、芹川ではダム計画が最も有利である。）

住民の声

- 治水安全度 1/100 は概ね賛成であり、治水事業による安全・安心なまちづくりを望んでいる。
- 治水対策としてのダム建設には賛成・反対双方の意見があるものの、水谷川での穴あきダム建設の提案は、環境に配慮した方式として評価できる。
- 工事中の環境影響や工事用車両による道路事情の悪化といった懸念があり、十分な対策が必要である。
- ダム事業への不信感を大きくした原因の一つとして、住民への広報不足が挙げられる。今回の「川づくり会議」を一つの契機として、引き続きダム事業の必要性や事業概要について、流域住民への情報発信が必要である。

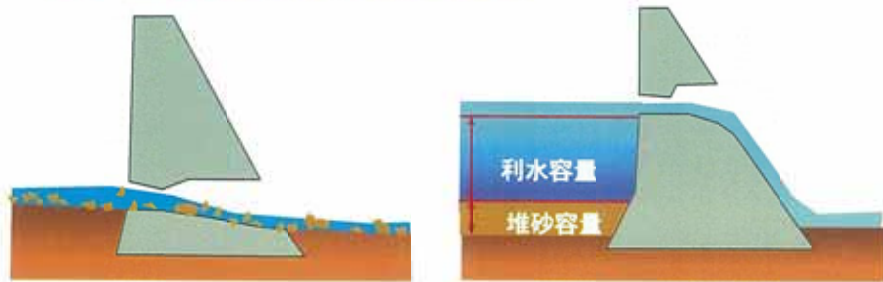
行政の対応

- 流域の資産や人口の集中状況を考慮すれば、治水安全度を 1/100 とした河川整備は必要である。
- ダム型式は河床穴あき方式とし、貯水池の水質による環境への影響が生じないものとする。さらにダム位置を支川・水谷川へ変更することにより、芹川本川の自然環境の保全を図る。
- 工事中、工事前後を含めて環境調査を行い、環境への配慮に努める。
- これまで住民会議や公開説明会等、情報の発信に努めているが、引き続き住民への情報提供を行う。

“穴あきダム”の特徴

1-1 平常時(1)

水を貯めない；流入水＝放流水であり、水質、水温差が小さい
土砂を貯めない；土砂を自然に排出する

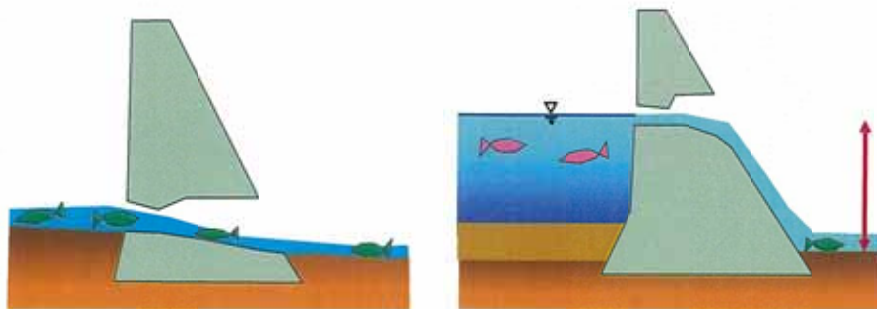


一般的なダム；水、土砂をせきとめる

※穴あきダム；栗栖ダムにゲートはなくオリフィスという穴で洪水調節する。この穴を河床部に配置したのが穴あきダムである。利水容量と堆砂容量をもたない治水専用のダムである。

1-2 平常時(2)

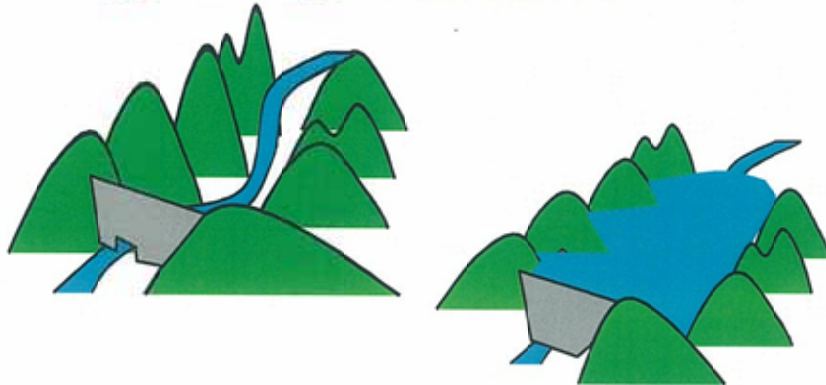
河床の高低差が小さい；魚類の往来が少しの工夫で可能



一般的なダム；高低差が大きく魚の
遡上は難しい

1-3 平常時 (3)

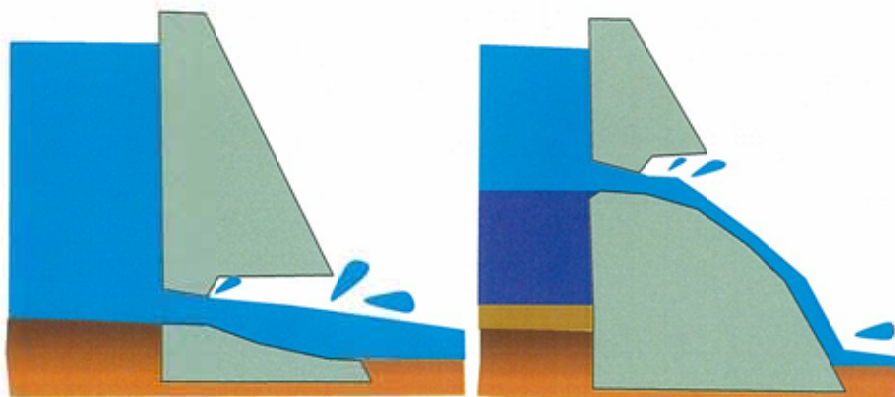
水を貯めない；ダム上流の水辺環境の変化が小さい



一般的なダム；貯水池により現状の水辺環境は失われ、新しい水辺が創出される。

2 洪水時

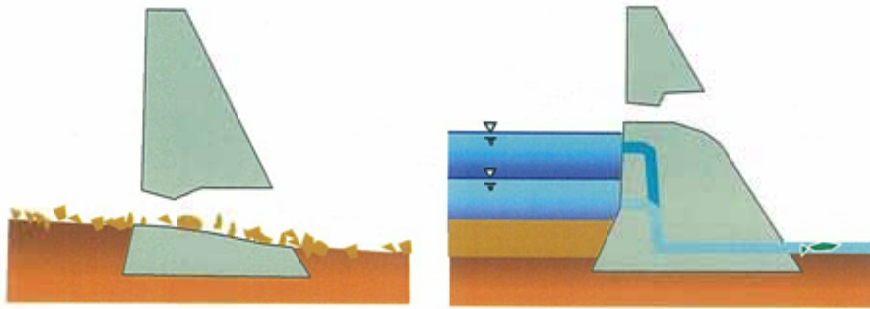
■河床の孔（オリフィス）により流量を調節する。



一般的なダム：常時満水位の孔により流量を調節する。

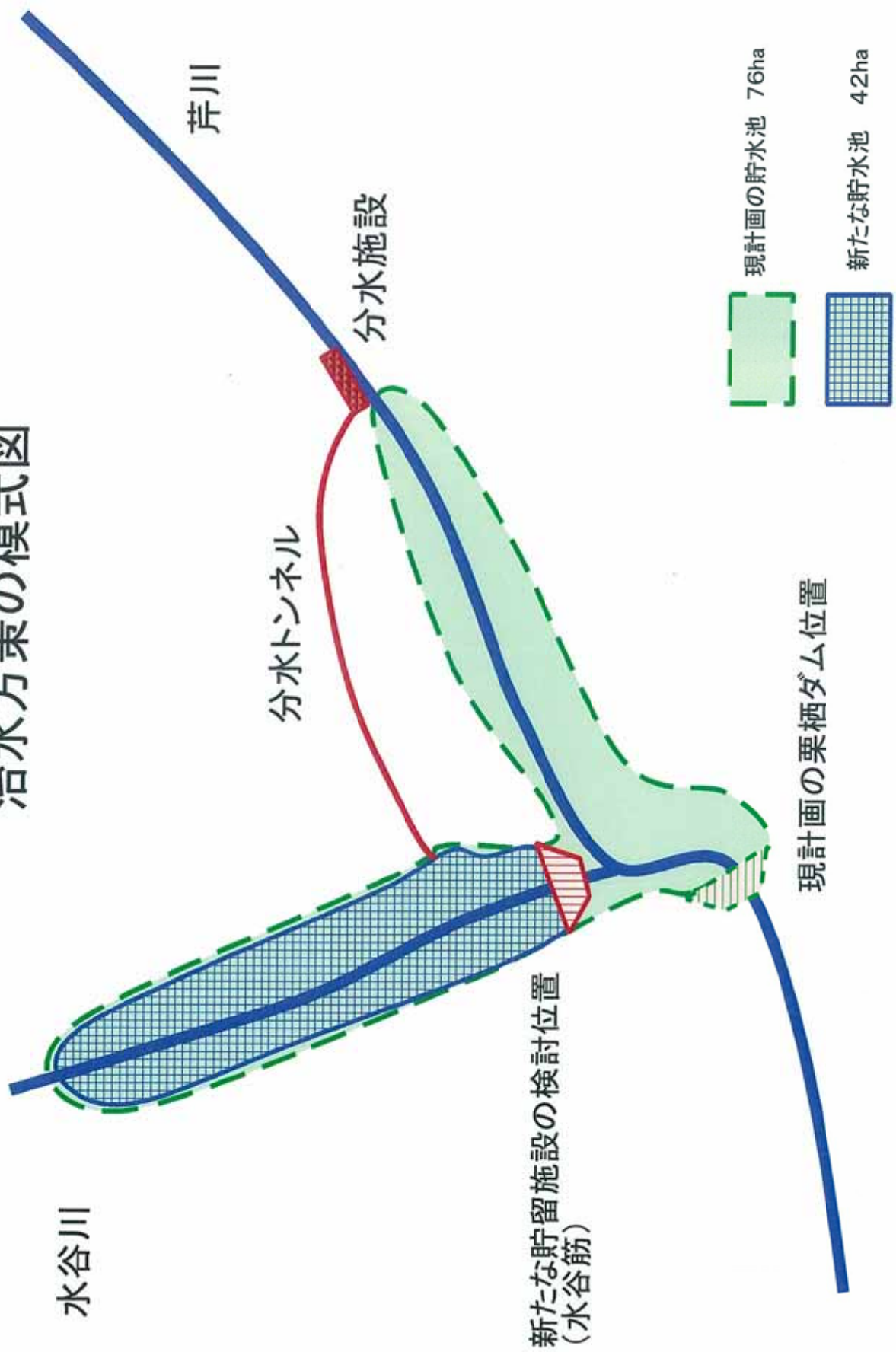
3 渇水時

■貯留水による水の補給はしない



一般的なダム；貯留水により水の補給を行う

治水方策の模式図



芹川

分水施設

分水トンネル

現計画の貯水池 76ha

新たな貯水池 42ha

現計画の栗栖ダム位置

水谷川

新たな貯留施設の検討位置
(水谷筋)